

- 大学院での研究指導を希望する学生（入学予定者）は、合格後、教務課を通じて、もしくは直接教員にメール（ayumu@aoyamagakuin.jp）連絡してください。
 - 貿易・外国直接投資・自然災害・芸術文化などの分野におけるマイクロ実証分析（教員の専門分野）のみ指導可能です。
 - 入試では、経済学検定試験（ERE）で A 以上を取得することが望ましいです。
- 応用マイクロ経済学の実証研究には、経済学の知識に加えて、計量経済学の知識と R の操作技能が必要です。そのため、修士 1 年の履修/学習計画において、以下の点に留意してください。
1. 当該授業科目の担当教員の承認を得て、経済学専攻で開講されている以下の科目を修士 1 年のうちに履修すること。
 - 必須「統計学研究/演習 I」（前期、後期）2 単位
 - 推奨「計量経済学研究/演習 I」（前期）2 単位
 - 推奨「国際経済学研究/演習 I」（前期）2 単位

「他研究科・他専攻の授業科目については、当該授業科目の担当教員の承認があれば **10 単位以内**に限り修了要件単位として認める」こととなっています（大学院要覧）。
 2. 前期火曜 3 限「グローバル経済論演習」（2 年次配当科目のため単位は取得できない）に出席し、毎週、研究計画の相談を行うこと。修士 1 年後期以降も毎週指導教員の大学院講義に出席し、研究相談すること。
 3. データの入手可能性・先行研究・研究デザインの検討を踏まえ、研究計画を変更して頂くことがあります。データの入手については 1 年次より相談・指導を行います。研究内容によっては、教員との共著論文作成に取り組みます。
 4. 基本的に参考にする先行研究は、10 年以内に公刊されたトップジャーナルの英語論文とすること。
 5. 計量分析のため R を習得してください。Posit Cloud のアカウントを取得し、学部 2 年次ゼミ（後期火曜 2 限基礎演習）に出席し、R を習得するようにしてください。Stata は経済学分野では圧倒的なシェアで経済分析には便利です。博士後期課程に進学する場合は Stata も習得することが望ましいです。
 6. 修士論文は LaTeX (Overleaf) で作成します。Overleaf のアカウントを取得し、LaTeX の使い方を学んでおいてください。